

こども施設

施設概要

◇公立保育園

保護者が就労などにより昼間家庭にいない未就学児が過ごす場として整備しています。

また、保育園の未利用児童も含め、地域の子育て家庭における子育ての負担・不安の解消や、ニーズに応える多様な取組を進めています。

◇学童保育クラブ室

保護者が就労などにより昼間家庭にいない小学生が過ごす場として整備し、児童の安全及び健全な育成を図ることを目的としています。

令和2年4月1日現在の施設概要

施設名称	地区	建築年度	築年数	構造	耐震化		延床面積 (㎡)	運営	防災 施設
					診断	改修			
西岐波保育園	西岐波	昭和47年度	47年	R C	済	不要	452.00	直	非該当
神原保育園	神原	平成18年度	13年	S	不要	不要	818.92	直	非該当
新川保育園	新川	昭和54年度	40年	R C	済	不要	732.02	直	非該当
第二乳児保育園	鵜の島	昭和50年度	44年	R C	済	不要	386.25	直	非該当
原保育園	原	昭和53年度	41年	R C	済	不要	705.00	直	非該当
東岐波学童保育クラブ室	東岐波	平成3年度	28年	S	不要	不要	201.90	委	非該当
西岐波学童保育クラブ室	西岐波	平成19年度	12年	S	不要	不要	229.75	委	非該当
上宇部学童保育クラブ室	上宇部	平成26年度	5年	S	不要	不要	228.15	委	非該当
黒石学童保育クラブ室	黒石	平成26年度	5年	S	不要	不要	228.15	委	非該当

※RC・・・鉄筋コンクリート造、S・・・鉄骨造、CB・・・コンクリートブロック造、W・・・木造

【備考】

- 建築年度、築年数、構造、耐震化は、主たる建物の状況を記載しています。
- 耐震化について、昭和57年以降の建築物（新耐震基準）、耐震診断により新耐震基準を満たしていることが判明した建築物は、「不要」と記載しています。
- 運営について、直営は「直」、指定管理は「指」、委託（指定管理を除く。）は「委」と記載しています。
- 防災施設について、災害時に避難所、緊急避難場所、防災拠点として使用される施設は、「該当」と記載しています。

施設評価及び今後の方向性

担当課	1次評価（定量評価）					2次評価（定性評価）					
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
保育幼稚園学童課	A	—	A	C	3点	0点					
評価結果の分析					評価結果の分析						
西岐波保育園	毎年、定員を超過しており高い利用状況である。昭和47年度に建設されており、老朽化のため、雨漏りや壁の亀裂などがあり、大規模な修繕又は更新が必要な状況である。耐震診断の結果は、「耐震性あり」である。					地域内の保育施設や子育て支援機関等と連携を図りながら、保育サービスの質と内容の充実に取り組むために、必要な機能である。					
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性					建物の方向性					
	現状維持					更新					
	スケジュール										
											対策費（千円）
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	291,781
	説明										
	東部エリアに属する西岐波保育園は、昭和47年度に建設された耐震性を有する施設であるが、築後47年が経過し老朽化している。 今後、一時預かりや子育て支援等の機能の複合化を踏まえた建て替えを進めていく。										

担当課	1次評価（定量評価）					2次評価（定性評価）					
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
保育幼稚園学童課	A	—	A	A	3点	0点					
評価結果の分析					評価結果の分析						
神原保育園	定員を超える年も多く、高い利用状況である。平成18年度に建設され、新耐震基準を満たしており、建物は比較的新しく、目立った損傷はない。					地域内の保育施設や子育て支援機関等と連携を図りながら、保育サービスの質と内容の充実に取り組むため、必要な機能である。					
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性					建物の方向性					
	現状維持					現状維持					
	スケジュール										
											対策費（千円）
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
	南部エリアに属する神原保育園は、平成18年度に建設された築後13年を経過する耐震性を有する施設である。 今後は、日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
保育幼稚園学童課	A	—	A	C	3点	0点					
新川保育園	評価結果の分析				評価結果の分析						
	定員を超える年も多く、高い利用状況である。大きな損傷はないものの、昭和54年度に建設されており、経年劣化による設備等の更新が必要な状況である。耐震診断の結果は、「耐震性あり」である。				地域内の保育施設や子育て支援機関等と連携を図りながら、保育サービスの質と内容の充実に取り組むため、必要な機能である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
	中央部エリアに属する新川保育園は、昭和54年度に建設された耐震性を有する施設であるが、築後40年が経過し老朽化している。今後は、必要な修繕、改修を行い維持していく中で、第2期宇部市子ども・子育て支援事業計画期間中に保育ニーズの推移等を見極めながら中央部エリアでの特性を考慮し、本施設の方向性を検討する。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
保育幼稚園学童課	A	—	A	C	3点	0点					
第二乳児保育園	評価結果の分析				評価結果の分析						
	近年は、3歳児からの転園に不便を感じる保護者もいるため、定員を下回る年も多い。昭和50年度に建設され、老朽化のため、壁の亀裂などがあり、大規模な修繕が必要な状況である。耐震診断の結果は、「耐震性あり」である。				地域内の保育施設や子育て支援機関等と連携を図りながら、保育サービスの質と内容の充実に取り組むため、必要な機能である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説明										
	中央部エリアに属する第二乳児保育園は、昭和50年度に建設された耐震性を有する施設であるが、築後44年が経過し老朽化しており、駐車場、周辺道路とも狭あいである。今後は、必要な修繕、改修を行い維持していく中で、第2期宇部市子ども・子育て支援事業計画期間中に保育ニーズの推移等を見極めながら中央部エリアでの特性を考慮し、本施設の方向性を検討する。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
保育幼稚園学童課	A	—	A	C	3点	0点					
原保育園	評価結果の分析				評価結果の分析						
	毎年、定員を超過しており高い利用状況である。昭和53年度に建設され、老朽化のため、壁の亀裂などがあり、大規模な修繕又は更新が必要な状況である。耐震診断の結果は、「耐震性あり」である。				地域内の保育施設や子育て支援機関等と連携を図りながら、保育サービスの質と内容の充実に取り組むため、必要な機能である。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円） 0
	説明										
	西部エリアに属する原保育園は、昭和53年度に建設された耐震性を有する施設であるが、築後41年が経過し老朽化している。				今後は、必要な修繕、改修を行い維持していく中で、第2期宇部市子ども・子育て支援事業計画期間中に保育ニーズの推移等を見極めながら西部エリアでの特性を考慮し、本施設の方向性を検討する。						

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
保育幼稚園学童課	A	—	A	A	3点	0点					
東岐波 学童保育クラブ室	評価結果の分析				評価結果の分析						
	登録児童数は、やや増加傾向にあるが、利用状況は、横ばいとなっている。建物に目立った損傷はない。				保護者の就労などによる留守家庭の小学生が、学校終了後に安心・安全に過ごす場として必要な機能と考える。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール										
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	対策費（千円） 0
	説明										
	平成3年度に建設された築後28年が経過した耐震性を有する施設で、建物には大きな損傷等もない。				日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。						

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
保育幼稚園学童課	A	—	A	A	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
西岐波 学童保育クラブ室	登録児童数及び利用状況は、やや増加傾向にある。 建物に目立った損傷はない。				保護者の就労などによる留守家庭の小学生が、学校終了後に安心・安全に過ごす場として必要な機能と考える。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性			建物の方向性							
	現状維持			現状維持							
	スケジュール					対策費（千円）					
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説 明										
	平成19年度に建設された築後12年が経過した耐震性を有する施設であり、建物には大きな損傷等もない。 日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
保育幼稚園学童課	A	—	A	A	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
上宇部 学童保育クラブ室	登録児童数及び利用状況は、横ばいとなっている。 建物に目立った損傷はない。				保護者の就労などによる留守家庭の小学生が、学校終了後に安心・安全に過ごす場として必要な機能と考える。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性			建物の方向性							
	現状維持			現状維持							
	スケジュール					対策費（千円）					
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説 明										
	平成26年度に建設された築後5年が経過した耐震性を有する施設である。 日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。										

担当課	1次評価（定量評価）				2次評価（定性評価）						
施設名称	ソフトの評価			ハードの評価 建物性能	施策上等の必要性	代替の可能性					
	利用状況	経費効率	(利用)+(経費)								
保育幼稚園学童課	A	—	A	A	3点	0点					
	評価結果の分析				評価結果の分析						
黒石 学童保育クラブ室	登録児童数及び利用状況は、やや増加傾向にある。 建物に目立った損傷はない。				保護者の就労などによる留守家庭の小学生が、学校終了後に安心・安全に過ごす場として必要な機能と考える。						
	今後の方向性（R2～R11）										
	機能の方向性				建物の方向性						
	現状維持				現状維持						
	スケジュール							対策費（千円）			
	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	0
	説 明										
	平成26年度に建設された築後5年が経過した耐震性を有する施設である。 日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。										